若者が潰れないために

最近、高齢者のグループホームに勤務し出した若者から、次のようなメール。

【グループホームは、胃ろう、Ｃ型肝炎、ＳＲＳＡ（＋）、緑膿の方も多く、身体面でも、痴呆の度合いも特養（特別養護老人ホーム）に近い状態でした。ケアの面だと、胃潰瘍の人に普通の水道水を飲ませたり、胃ろうの人へのエンシュアなどを早く流したり、毎回胃ろうの前にサクションしたり､爪きりも使っても酒精綿などでの消毒もせず・・・「○○さんからうつったなぁ」くらいで・・・。「えぇ？？」という感じです。

今のグループホームを見てると、グループホームって一体、何なの？と思ってしまいます。

ゆとりの面では、やはり、特養と違って関わる時間もいっぱいありますが、最低しなくてはいけないケアというものはあるのでは？と思ってしまう。

個々の生活を重視する必要があるはずのグループホームですが、心身の状態を穏やかに保つためにもケアが必要に感じるのですが・・・。

いいところも、もちろんたくさんあります！ただ、ケアの部分で気になるところがたくさんで・・・目をつぶっておくところなのか、積極的に取り組むことなのか、まだ疑問がたくさんなグループホームです！】

こうした現状に、我々、家族、社会の人々も「目を瞑っている」のはないでしょうか……。

それだけに、この若者に、「新人だけに、しばらく目をつむって……」と気休めを云うべきか、「首になる覚悟で発言しろ！」と云うべきか、どう返信すればいいのか、言葉を探し倦ねています。

高齢者のケアの現状は、このグリープホームに似たような現状をたくさん見聞きしているだけに、施策がどんどん出来ても、実際の施策の現場のこうした実情を更に聞くと、益々唖然……。

高齢者福祉施策云々にはいくらでもコメント・返信できますが、現に現場でこうして苦悩する若者に、現場の雰囲気に潰されないように、どう声かけして励ませばいいのでしょうか……。

皆さんであれば、こうした当事者への観点・感性豊かな新人の若者に、どう励ましの声をかけをしますか？

「感性豊かな若者が潰れないために……」へのコメント

HP「感性豊かな若者が潰れないために……」を目にしたメル友から、以下のコメントをいただきました。

①ＨＰ、読ませていただきました。

グループホームというのは、元々は何を目指して組織なのかなあと思いました。

福祉関係の研修企画の研修に参加したことがあります。施設に限らず、だと思いますが、その機関の目指すところによって、職員に求めるものが違う、と講師の先生が話しておられました。

この若者という方に、何を語るか、というのは、私のようなものがおこがましい感じで、何も語れませんが、まず現状をよく聞くことかな、と思いました。

何がこのようにさせているのか、わからないので・・・。

医療依存度の高い方へのケアについては、やはり知識が必要だと思います。

看護師等の医療に明るい職員がいるのか、とか、指導をしてくれそうな医師がいるのか、とか・・・。そういう方がいて、なお今のようなケアであるとすると、どこがネックなのか、とか・・・。

同じような思いの職員がいるのか、などもつかめると、次の行動に移しやすいように思いました。

いろいろ考える中で、この若者さんが求めている組織ではないとしたら、私は辞めてもいいのかも、とも思います。

友人の祖母が老健施設に入所したいとのことで、知っている人のいる施設に連絡をしました。知人というのは、元県職員で保健福祉関係の仕事が多く、退職後に福祉施設の事務長のような仕事をしています。

その方の話では、その老健が、新しくできたところなので、ケアが十分ではない、と言

っていました。それは、慣れていない、ということのようでした。
事務長のようなポストの人がこのように話すのは、今後に期待できるのかもしれないなあ、と思いましたが、どうなのでしょう。

医療依存度の高い方へのサービスやケアのあり方は、まだまだ、なのだと思います。
厚生労働省では、退職後の看護師の活用にも積極的ですが、こういうところに退職した看護師がスーパーバイズできるようだといいなあ、と思いました。

この若者という方が阿部さんにメールを送ったのは、きっと、阿部さんに何か言って欲しかったのだろう、というか、何か期待があったのでは、と思いました。
本来、施設でも在宅でも、一人一人のケアの計画があるべきだろうと思います。その方にどうなって欲しいのか、本人や家族はどうしたいのか、そういう当たり前のことができていないところが多いのかもしれないですね。

この前の長町病院のクリニックの医療事故には驚きましたが、このグループホームでは、事故は起きていないのでしょうか？

石巻の浦島などは、職員の告発で明らかになったのだと思います。告発あり、なんですよね。

はっきりしない意見になってしまいましたが、最初の方に示したとおり、若者さんが、どうしたいのか、を見つけていただけるように話を聞く、ことかな、という結論です。

すごいいい感性ですよね。他のいいところも感じ取っていらっしゃるし、全体を見ながら考えることも大切ですし・・・。

勉強になりました。

②福祉施設の意見、読みました。
その施設が何を目指しているのか、その中で、もうだめであれば、辞めてもいいという

選択。それは、ありだと私も思います。

何か気になることがあって、それが話し合える職場であれば、そこにいる利用者の方も楽しくもなるのでしょうね。（感じる職員がいてこそ！ですが）

やはり、福祉施設というところは、（そこに限ったことではありませんが）、そこで、働く人の気持ちに大きく左右されますね。

そのことを自覚している人も少ないのではないでしょうか。

（2004 年 10 月 18 日　記）